

「こども食堂」は地域とつながり、地域の役に立ちたいと
いう想いで始めました。こどもはもちろん、働く保護者の
方も安心して過ごし、あたたかいごはんを食べられる場と
して利用していただきたいと
思っています。コロナ禍では弁当配布を始
めました。コロナが明け、通常どおり食堂形式のみに戻す

ことも考えましたが、家でゆつくり過ごしたい家族や家から出ることが難しい人のニーズに応えるため、食堂と弁当配布の各日を設けることにしました。
こども一人でも、家族でも皆さんが安心して気軽に利用してもらえるように、こども食堂を続けていきたいです。



こども食堂

開成町にサポートオフィスを構え、町内で福祉サービス等を提供している社会福祉法人一燈会では、ヤングケアラー等の家庭状況に関わらず、地域のすべてのこどもたちが楽しく過ごすための居場所づくりに取り組んでいます。今回は、同法人サウスマークの石川施設長にその取組を紹介してもらいました。

地域のこどもたちが楽しく過ごす居場所づくり

こどもの居場所づくり

こころの居場所づくり

周りにヤングケアラーだと思われる人がいた場合、私たちには何ができるのでしょうか？

もし、あなたの大切なお友だちが悩みや辛い気持ちを打ち明けてくれたら、まずは、そのお話を聞いてあげてください。勇気をだしてあなたにお話してくれたのかもしれません。きっと、お話を寄り添って聞いてもらうだけでも、そのお友だちの気持ちは少し楽になると思います。そして、「学校は楽しい？」など日常会話から声かけをすることで「こころの居場所」ができると思います。



こども課 みずの さかなか 水野 咲穂香



▲ この日は施設の利用者さんと数独に挑戦！

「にこにこひろば」は、今年7月から始めました。ここで宿題や遊びなど、好きなことをして過ごしています。また、施設の利用者さんや施設で働く外国人職員と交流することもあり、多世代・多国籍交流の場にもなっています。利用者さんは、こどもが好きな方や元教員の方もいるらしくるので、宿題を教えてもらったりする子もいます。

核家族化で、高齢者と過ごす機会があまりないお子さんは、宿題や遊びなど、好きなことをして過ごしています。また、施設の利用者さんや施設で働く外国人職員と交流することもあり、多世代・多国籍交流の場にもなっています。利用者さんは、こどもが好きな方や元教員の方もいるらしくるので、宿題を教えてもらったりする子もいます。

もともと過ごす機会が少ないうため、「にこにこひろば」の時間をお楽しみにしています。共働きの家庭も増えているので、安心して過ごせる居場所として利用してもらいたいです。そして、こどもたちに「福祉」のことを身近に感じてもらいたいですね。

2つの活動を紹介します！



社会福祉法人一燈会
サウスマーク
いしかわ ゆういちろう
石川 裕一郎 施設長

にこにこひろば

こども食堂

第1・第3日曜日 11時～12時
(第1日曜日は食堂形式、第3日曜日は弁当配布)
こども：無料、大人：300円（30食限定）

どちらも、サウスマーク（開成町みなみ5-5-10）1階で開催。予約不要。
問合せ：サウスマーク ☎85-0281

◆こどもの居場所づくりはP13もチェック

にこにこひろば

毎週水曜日 14時30分～17時



ヤングケアラーのことを相談できる場所

- 担任の先生、保健室の先生、スクールカウンセラーなど
- 町こども課（こども家庭センター）
☎84-0327
- かながわヤングケアラー等相談 LINE



- かながわケアラー電話相談
☎045-212-0581

あなたが相談しやすい
ところに相談してみよう

